

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について下記のとおり情報を公開します。

研究結果は学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

★本研究の対象となられる患者さんで本研究にご賛同いただけない方や、研究計画、研究方法、または個人情報の取扱いなどについてお問い合わせがある場合は、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★研究不参加を申し出られた場合も、不利益を受けることはありません。

<研究課題名>

Thyroid transcription factor-1(TTF-1)陰性肺小細胞癌における臨床病理学的検討

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 呼吸器内科 (研究責任者)高橋 典明

<研究期間>

承認日～2019年7月30日

<研究の目的と意義>

肺小細胞癌は神経内分泌腫瘍の1つであり、肺癌の中で特に進行が早く、見つかった際に正確な診断を行うことが非常に重要な肺癌の1つです。様々な治療法がありますが、多くは化学療法を主体とした治療を行います。

気管支鏡検査(経気管支鏡的肺生検、擦過細胞診)、経皮肺針生検検査、胸腔鏡下肺生検、手術などで採取した肺組織を顕微鏡で見ると、ヘマトキシリン・エオジン(HE)という染色で、小型から中型の類円形、紡錘形の核を持ち、細胞質に乏しい細胞からなり、神経内分泌形態が特徴的な上皮性腫瘍とされています。

さらに免疫染色上 Thyroid transcription factor-1(TTF-1)という肺と甲状腺から発現する組織特異的蛋白が、肺小細胞癌で約90%が陽性となるとされ、診断を行う際に有用であり検査に用いられています。しかし、約10%でTTF-1が陰性である肺小細胞癌の症例が認められ、その場合に肺以外から起こる肺外小細胞癌との鑑別に苦慮する症例もあります。また、TTF-1陰性に加え、神経内分泌マーカーが陰性である肺小細胞癌は確定診断が困難であり、他組織型との鑑別に苦慮し適切な抗癌剤の選別に難渋する症例も経験されます。

そこでTTF-1陰性肺小細胞癌であった患者様を中心に、肺組織検体の病理学的特徴や抗癌剤治療の経過、治療効果などの検討を行いたいと考えております。

<対象となる患者さん>

西暦2010年1月1日～西暦2015年12月31日の期間に気管支鏡検査(経気管支鏡的肺生検、擦過細胞診)、経皮肺針生検検査、胸腔鏡下肺生検、手術で診断をされた肺小細胞癌、非肺小細胞癌、肺外小細胞癌の患者様

<研究の方法>

当院において、2010年～2015年に当院で気管支鏡検査(経気管支鏡的肺生検、擦過細胞診)、経皮肺針生検検査、胸腔鏡下肺生検、手術を行ったTTF-1陰性肺小細胞癌と、TTF-1陽性肺小細胞癌、肺外小細胞癌の患者様において、肺組織、肺外組織検体においてTTF-1や神経内分泌因子に関する免疫染色、遺伝子転写物の解析を行い、それぞれの病理学的な比較検討を行います。なお、遺伝子転写物の解析は、診断後の残余検体から核酸を抽出しますが、患者様の遺伝には関係なく、癌細胞のみが発現している遺伝子転写産物を解析するものです。さらに血液検査、生理学的検査、画像検査や治療薬への反応性などとの比較を行い、臨床学的にも検討を行います。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

呼吸器内科 氏名:高橋 典明

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2402

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1512)